

誰も置き去りにしない、  
生き抜く力にあふれた  
子どもたちを育むために



# 未来 Watch

みらいウォッチ

生き抜く力にあふれた子どもたちを育むコミュニティー

## 特集

私がつくる子どもの笑顔 第10回

### ともに学び ともに生きる 子どもを育てる

～ 自分も 人も 大切にする ～

特別企画

### 未来Watch発刊3周年誌上対談 これからの教育活動のために

インフォメーション

心に届けるおすすめコンテンツ



※写真は奈良県営馬見丘陵公園です

#### インフォメーション

### 心に届けるおすすめコンテンツ

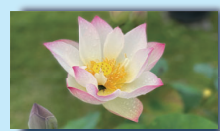
#### スマホで読める、感動のコラム!



#### レジリエンス

親鳥に見守られながら、早くもツツバメが巣立ち始めました。まだまだおぼつかない羽ばたきのため、時折吹く風に煽られ…

続きはこちらから >>>



#### 本物の授業

いよいよ教育現場は1学期末を迎え、日々とてもご多忙のことと思います。この時期になると、保護者懇談会での忘れ…

続きはこちらから >>>



ニッケ教育研究所のホームページを、是非ご覧ください!

<https://nikke-edu.org/>



#### 一般会員募集

私たちと一緒に、「子どもたちが生き生き伸び伸びすごせる環境づくり」に参加していただけますか? 子どもたちは“未来の宝”です。私たちが発信する未来の宝を育む情報を、学校・家庭・地域で是非ご活用ください。入会のお申し込みは、ホームページでご案内しています。

#### 編集後記



最近、生成AIが世間で話題になっています。コンピュータが学習したデータを元に、新しいデータや情報をアウトプットする技術ということですが、リスクもあり、今後どのように世の中で活用していくかはまだ模索されている状態です。子どもたちが社会に飛び立つ10年以上先の世の中は誰も想像できないものになっているように感じます。このような世の中において重要なことは、年齢や性的属性を超えて人とつながっていく力と、そうしてつながった仲間と共に新たなものを学んでいく力だと考えます。学校や、それを支える家庭・地域が、皆で学びあう場になればと思います。

一般社団法人ニッケ教育研究所  
理事長 楠本 景央



FOLLOW US!





未来Watch発刊 3周年誌上対談

これからの  
教育活動のために

《ニッケ教育研究所顧問》 かつもと たかお  
**勝本 孝夫** 氏  
元・大阪市立榎本小学校校長（鶴見区）  
元・大阪市立姫里小学校校長（西淀川区）

《大阪市教育センター所長》 みずぐち ひろき  
**水口 裕輝** 氏

長いコロナ禍の間、教育現場は大きな試練に立ち向かいながら新たな可能性を模索してきました。これまでの経験を今後の教育活動にどう活かしていくのか。大阪市教育センターの水口裕輝所長と、ニッケ教育研究所の勝本孝夫顧問に誌上対談をしていただきました。（聞き手は、ニッケ教育研究所 橋本立志）

—— **新型コロナは5類に移行し、社会生活も徐々に平時に戻りつつあります。これまでをふりかえり、教育活動に対する今の思いをお聞かせください。**

**水口所長** 令和2年1月頃からコロナが言われ始め、当時、校長先生方とお話する機会があったんです。その時の「答えのない問いに毎日向き合っているようで」という言葉が印象に残っています。教育委員会自体、どの方向に行けば良いのかを模索していましたが、学校現場ではそれぞれの事情や現実に合わせた対応に追われていました。分散登校やオンライン授業が始まるなど大変な状況でしたが、「**もう一度教育の原点を見つめ直さないといけない**」と思えたと感じています。そして先生方が一生懸命考え動き、「子どもにとってこれが一番良いのでは」と見つめ直す機会になったと思います。それぞれが危機的な状況にあってもレジリエンスを発揮し、組織総体として「**子どもが主役の学校づくり**」をめざすことができたの思いがあります。ようやく平静を取り戻しつつありますが、元に戻るのではなくコロナ禍で得られたことを活かして新たなステージを築いていければと思っています。

**勝本顧問** 確かに既成概念を見直すきっかけになりましたね。例えば運動会を子ども中心に据え直した時、改善の余地もあるかと思っています。原点に戻ることができたというのは良く分かります。

**水口所長** ある小学校の高学年の遠足で、電車が使えなくなったんです。子どもに考えさせたところ、近隣の大きな公園に歩いて出かけることになりました。低学年も誘って一緒に行くことになり、そこにつながりが生まれました。そして、「自分たちで考えてきた」電車で行けなかったけど、この遠足も「**子どもを主語にした教育活動**」という方向に、大阪市の学校教育も向かっていると感じています。

**勝本顧問** 子ども自身が考えていくというのは、総合的読解力に関わってくる気もします。公園までのルートを通ったら早いのか、安全なのかといった総合的な思考が働いていると思うんです。分析したり頭の中で描いたり、子どもが知恵を働かすことはとても大事なことでと思います。

**水口所長** その上で今、何が求められているかと言えば「**探究**」だと思っています。いろいろな基礎知識を身につけながら、それをもとに目の前の課題をどう解決していくのか。子ども自身が考え、答えを見つけていく姿勢がこれからの社会には必要だと思います。

**勝本顧問** 「探究」の大切さは以前から言われてきましたが、コロナ禍で再認識したと思います。生活や命にも関わってくるような経験を、これからの予測困難な時代に活かしてほしいと感じています。

**水口所長** もうひとつ。学力面でも生活面でもコロナの影響は一律ではなく、所謂しんどいところへのしわ寄せが、非常に強くいっていると思うんです。学校はそのことを理解した上で対応しなければならぬ。子どもの言動から出てくる細かな変化を捉え、子どもの思いを聴きながら「一緒に頑張ろう」ということが必要なんです。しんどいところの子どもに対して何をしていくのか、どの学校でも考えていかなければならないと思います。

—— **令和4年度から、新たな「大阪市教育振興基本計画」が施行されました。そこでの方向性と、教育センターのお考えについてお聞かせください。**

**水口所長** 3つの最重要目標のうち、「安全・安心な教育の推進」「未来を切り拓く学力・体力の向上」は、前から引き継がれたものです。これらを実現するために、「学びを支える教育環境の充実」が加わりました。ウェルビーイングという言葉がありますが、ICTや教員の働き方改革など全てが良い状態になるためには、学校環境が良くなければなりません。それこそ、**先生自身が幸せにならないと子どもが幸せにならない**。それ

を考えていった時、教員経験10年未満の方が半数以上という状況の中、若手をどのように育てていくのが大きな課題と捉えています。教員は「専門職」と言われるように、学歴や知識があればできるというのではなく授業力や指導力が必要です。そのため、教員のニーズやキャリアステージに対応した研修内容の充実を図るとともに、教育実践のイノベーションにつながる研究を推進し、各学校の研究を支援していきます。

**授業力育成**は教育センターの使命だと考え、昨年度から「**学力向上支援チーム事業**」をスタートしました。40名を超える元校長等がスクールアドバイザーとして小・中学校に赴き、若手の指導力向上と授業改善に取り組んでいます。とても好評で、今後は若手だけでなく学校全体の研修にしていければと考えています。

**勝本顧問** 理想的な話ですが、できれば管理作業員さんとか給食調理員さん、特に学校事務の方を巻き込めればと思います。少しでも関わることで、子どもの授業に興味を示してくれるのではないのでしょうか。

**水口所長** 子どもを主役に一緒に教育活動をつくっていくことを考えれば、知っていただくほうがいいです。その上で、その方たちの思いを聞くような場面や時間を設けるのも必要なことだと感じます。

**勝本顧問** 涙が出そうな話ですね。学校全体が、教職員全員が一致団結して子どものために前へ進んで行く。理想的というか、実際そうならないといけないですね。

—— **総合的なシナジースクエア機能の強化をはじめ、新たな取組を進めるための「大阪市総合教育センター」が令和6年度にスタートしますね。**

**水口所長** 生みの苦しみはありますが、夢のあるものをつくりたいと思っています。その上で、大学連携や学力向上、ICTの担当が一緒になることで、学校に対するより良い支援ができるようになると考えています。また、みんなが集い交流できる場として「**シナジースクエア**」を創設します。持続可能な社会をめざすためには、学校や教育委員会だけではなく、民間企業や最先端の研究を行うさまざまな学校と連携していく必要があります。大阪教育大学に移転するのも、教員の育成部分を特化して連携する必要があるからです。実際、カリキュラム・マネジメントを進めるにあたって、全国各地の実例を大阪教育大学の教授から教えてもらったりしています。さまざまな知見を参考にしながら、より良い教育を大阪から発信できればと思っています。

**勝本顧問** 私の現役時代にはなかったことで、羨ましい環境ですね。シナジースクエアに行けば何らかの専門の方がいて、今悩んでいることを解決できるかも知れない。そういう場があるのはものすごく嬉しいですね。

**水口所長** 育休から復帰する時の不安を解消するような、そんな支援ができていいと思っています。校長先生の理解を得ながら教員の方が安心して活用できるよう、しっかりしたルールを作りながらと考えています。

—— **学校や先生を支援するさまざまな取組をお話いただきました。最後に、それらが活かされる学校現場についての思いをお聞かせください。**

**水口所長** 予測困難な時代を生き抜く中で、「**学校が子ども**

**もにどんな力を与えないといけないのかを考えること**」が一番大切だと思います。教員・職員間でディスカッションし、「こんな子どもをつくるためにはこんなことをしていこう」と。めざす子ども像や学校教育目標を共有し、日々の授業、学年行事をどうするか。それが**カリキュラム・マネジメント**でしょうし、全体を具現化した**グランドデザイン**が必要になると思います。若者たちが持っている感性をもっと引き出し、「どんな子どもを育てるのか?」をベクトルに、「学校をこうしよう!」「授業をこうしよう!」といった運営をみんなでできたら良いと思います。

**勝本顧問** そのようになると、応援し合うようになるんです。自分も応援し、隣の先生も応援してくれる。ひとりで踏ん張るのではなく、視野が広がることによって乗り越えていけるんです。学校全体としてのまとまりもできてるんです。

**水口所長** 勝本先生は、家庭・学校・地域の「3層のゆりかご」について度々お話をされていますが、子どもが自立していく時には、家庭・学校・地域の3つが関係してくると思うんです。「**レジリエンス**」という言葉がありますが、そこには尺度があり、高めるために何をしたら良いかを研究されている方もいらっしゃると思います。家庭の要因が多いのは事実なんです。でもそれだけではなくて個人の要因や社会の要因も関係しているんです。「前向きに頑張る力」や「感情を調整する力」を育成することで、ストレスを受けても「やっぱり、こうじゃないか」って考えながら、前を向いてより良い自分をつくっていける力。そんな力を育てる必要性を家庭や地域に言い続けることで、子どもはその場所の中で生きていけると思います。学校がどんな子どもを育てる、グランドデザインをどうする、それらを**家庭や地域に発信していく**のが非常に大きなことだと思います。

**勝本顧問** 教職員には転勤があっても動きますが、地域は動かない。だから、学校の全体構想を引き継ぐためにはグランドデザインという“かたち”で残すことが必要なんです。校長と教職員が展望を持ちながら全員でつくったものを、次の校長や教職員へ引き継いでいく、地域もそれを理解して引き継ぐ、そうすることで地域文化ができてくるんです。

**水口所長** 教職員の議論があって学校がつくったグランドデザインとなれば、次に来た人たちも「この学校はこうやって来たのか」と意見交換できます。また、ブラッシュアップも必要です。その時、子どもが折れずに負けずに生きていくことを考えたら、そういった「レジリエンス」機能をつけるための知恵を出し合うことも大切です。

**勝本顧問** 学校で学ぶのはそういう力をつけるためです。子どもが将来、困難な状況に直面した時、決断力、表現力、思考力が働かないといけない。その時のために、国語があり、算数や理科がある。非常時や災害時は自分のからだを支える体力もいる。**学校で学ぶことがすべてが人生の壁を乗り越えるためにある**ということ、私は校長時代に痛感しました。そして、「立ち向かい、乗り越える力」という学校目標を掲げたんです。その理解を共有すると、授業が変わるんです。子どもたちへの接し方も変わってくるんです。目の前の子どもに精一杯尽くすとともに、一方で視野を広げるといったバランス感覚を持つ必要もあるかと思っています。教育センターの今後の活動に期待しています。

新しい教育活動の創造や学校づくりなど、さまざまなお話を伺うことができました。大変、ありがとうございました。



# 私がつくる 子どもの笑顔

子どもたちの元気な声や輝く笑顔にあふれた学校をめざして、現場ではさまざまな創意工夫が行われています。「私がつくる 子どもの笑顔」では、現職の校長先生に学校づくりの考え方や具体例を紹介していただき、子どもたちを育む学校環境についての意識を深めていきます。  
第10回は、大阪市立塩草立葉小学校の竹内幸延校長です。

## 第10回 ともに学び ともに生きる 子どもを育てる ～ 自分も 人も 大切にする ～

《大阪市立塩草立葉小学校》 たけうち ゆきのぶ 竹内 幸延 校長

本校の校長に就任して8年目になります。素敵な子どもたちと保護者・地域の皆さん、信頼する教職員の皆さんに囲まれて、毎日が幸せです。

今から30年前、エイズ支援のボランティア活動に参加しました。すさまじい差別と偏見の中を生きる感染者、患者の方々とのお会いから、人権や命について深く学ばせていただきました。ここに、私の根っこがあります。ささやかではありますが、教育活動を通して、人に優しい共生社会が一日も早く実現すること、塩草立葉小学校がその小さなモデルになることを心から願っています。

子どもたちへの思いが込められたTシャツです→



### 学校全体が一人ひとりを包み込む

特別支援学級に在籍する子どもや個別の配慮を必要とする子ども、外国人籍の子ども、愛着形成に課題のある子ども

が年々増えています。そんな子どもたちを含めて、一人ひとりが安心できる教育活動を進めています。

### 人権教育

子どもたちの学びにはすべて、「自分も人も大切にする」というコンセプトが流れています。一見ばらばらに見える取組も、すべてがこのコンセプトでひとつにつながっています。取組ではさまざまな課題を取り上げます。ジェンダー、多様性教育、平和学習、戦争体験、盲導犬ユーザー、人権紙芝居、震災被災者・・・。

子どもたちにはできるだけ生の声を届けたいと思い、当事者の方をゲストティーチャーとしてお招きしています。学ぶ課題は違っても、「自分も人も大切にする」という意識を育むのが、塩草立葉小学校のめざす人権教育です。

### 性教育

子どもたちにとって身近な教材を探してきました。全学級で性教育を行った後、保護者、PTA、地域の皆さんに周知して、昨年秋に「性教育トイレットペーパー」（一般社団法人ソウレッジ）を校内トイレブースに導入しました。内容は国連のガイドランスを元に作成されており、「体のしくみ」「性的同意」「性暴力」「セクシュアリティ（性のあり方）」など、あたたかみのあるイラストで学ぶことができるものです。取り入れた様子はTBSテレビの情報・ワイドショー番組「サンデージャパン」（2023年1月15日放送分）でも紹介されました。

また、動画教材「性別思い込みあるあるシリーズ」（新設Cチーム企画）を全学年で活用しています。「好きなものに性別は関係ない」「泣きたい気持ちに性別は関係ない」「友達に性別は関係ない」「性別に優劣や順位はない」など、子どもたちにとって馴染みやすい内容が、ジェンダーフリーに対する理解を深めています。アレンジできる指導案も載っており、学級の実態に応じた学習を行っています。



昨年の11月末、私は6年生全員に「エイズと人権」について授業をさせていただく機会に恵まれました。久しぶりの授業でドキドキしましたが、子どもたちの反応がとても心強く、嬉しかったです。授業の中では、アメリカの非営利団体が制作した「Love Has No Labels（愛にレッテルはない）」という動画を流しました。社会的な偏見や差別に対する、子どもたちの意識が高まればとの思いからです。

### クールダウンスペース

ふとしたことでスイッチが入って感情を抑えられない子どもや、教室に入れない子ども、集団行動が得意でない子どもたちに、落ち着ける場所をいくつも用意しています。廊下やなかよし教室（特別支援学級）、校長室にパネルで囲ったスペースをつくり、誰でも使えるようにしています。気に入らないことがあると固まったり、暴言を繰り返したりしていた子どもが、「イライラしてきたとき、ここに来ると落ち着いてきます」と自分から利用しています。



### たてわり活動

1年生から6年生までの子どもたちを縦割りでグループ編成し、朝のショート集会やロング集会、なぞときオリエンテーリング、つながりフェスタなどの活動をしています。低学年の子どもが高学年のお兄さん、お姉さんに優しくリードされ、お互いに笑顔でふれあう姿はとても愛しいです。卒業式を迎える前に、「6年生とお別れするのはさみしいです」と言った1年生の言葉が、忘れられません。



### 教職員の笑顔が子どもの笑顔につながる



本校では、20歳代の教員が全体の35%を占めます。そんな若手教員が学び、同時にメンターのスキルを高める目的で、教務主任を中心にしたリーダー研修（メンター研修）を行っています。また、中堅・ベテラン教員が自由にテーマを決めて講師になり、「興味のある人、この指とまれ」方式で集まる「学びカフェ」も始めました。学び合い、高め合い、切磋琢磨することが、活力と連携を生み出し、あふれる教職員の笑顔が子どもの笑顔につながっています。



### 遊び心を大切に

私自身がかわいいもの好きで（笑）、校長室前には推しのキャラクターグッズがいくつも並んでいます。毎日、たくさん子どもたちが触ったり、抱きかかえたりして、癒されています。また、登校時の玄関では子どもたちが笑顔になるよう、時々仕掛けをしています。ここ数年は、修了式の朝、私自身がクリスマスツリーに変身しています。この時ばかりは、「うちの子と一緒に入ってください」とたくさんの保護者からスマホで撮影していただき、みんなで笑い合いました。このような良い意味での遊び心が子どもたちの創造力を刺激し、コミュニケーションのきっかけをつくっています。

遊び心いっぱいワンカット→



### おわりに

「業務は遂行する。子どもと教職員も守る。両方やらなくちゃあならないのが校長のつらいところだな。覚悟はいいか。オレ

はできる」——そんなある人の名言を、いつかは言ってみたいと思っています。